

(株) 第一興商 第 32 回番組審議会議事録

○日 時 平成 30 年 2 月 23 日 (金) 16 : 00 ~ 17 : 30

○場 所 (株) 第一興商本社 御殿山ビル 2 F 会議室

○議 題

・グループサウンズ [Ch. 422] 2017 年 10 月より選曲方針を見直し

視聴者様のご意見などを基に、マニアックな曲の編成を止め、誰もがイメージし易い、メジャー曲を中心とする選曲に変更した。

・シティ・ポップ特集 [Ch. 400]

近年、盛り上がりを見せるシティ・ポップ。4 月に 80 年代シティ・ポップを中心に年代別 (70 ~ 2000 年代) 特集として放送。将来専門 ch を視野に入れ検討中。

番組審議会委員・出席一覧 (敬称略) 14 名出席

《出席者》

音 好宏	上智大学教授 (議長)
弦 哲也	作曲家
湯川 れい子	作詞家/音楽評論家
ボブ 佐久間	作曲家/指揮者
山下 典子	企画制作プロデューサー
伊藤 薫	作詞/作曲家

(株) 第一興商・出席者一覧

保志 忠郊	代表取締役社長
渡邊 泰人	取締役兼上席執行役員

制作本部 BGM 放送部

渡辺 宏	BGM 放送部部长
瀧本 茂	BGM 放送部次長
八巻 任	放送企画課課長
吉倉 聡	放送制作課課長
細本 正樹	放送制作課リーダー

番組審議会事務局

磯部 智子	放送企画課チーフ
-------	----------

1. 2017 年度 第一興商・トピックスの報告

1) カラオケ事業について

- ・新機種発売
- ・DAM CHANNEL 演歌のスタート

・エルダー事業の拡がり

2) 店舗事業について

・ビックエコー30周年

3) スターデジオ(一般家庭向けサービス)の加入状況

4) スターデジオ/スターダム(業務用サービス)加入状況

2. スターデジオトピックス

- ・スターデジオ光 プラス 10 チャンネルの編成強化
- ・編成強化チャンネル (計 11 c h) 開始と今後の課題

- ① クッション曲を外す
- ② 日替わり編成を実施

3. 放送番組審議会

○放送局説明

- ・グループサウンズ[Ch. 422] 2017年10月より選曲方針を見直し

視聴者様のご意見などを基に、マニアックな曲の編成を止め、誰もがイメージし易い、メジャー曲を中心とする選曲に変更を行った。

- ・シティ・ポップ特集 [Ch. 400]

近年、盛り上がりを見せるシティ・ポップ。4月に80年代シティ・ポップを中心に年代別(70~2000年代)で放送。専門ch化の可能性について検討を進めている。

1) グループサウンズ

◎審議委員：

全盛期に私も同じ空気を吸っていた年齢なので、非常に懐かしく思いました。交流があったバンドが選曲されており、懐かしさ・嬉しさ・ありがたさを感じております。スターデジオは、耳から聞いた音を自分の声で歌う＝カラオケに繋がるのが大事だと思いますが、加入者年齢層を見てもグループサウンズ世代の方が多くですね。

当時高くて買えなかったギターなどを定年になって購入し、仲間で集まってバンドを結成する方など多くいらっしゃるのではないのでしょうか。定年後の娯楽としても楽しいチャンネルだと思います。

◎審議委員

改めてリストを拝見しました。脱マニアックは反映される前ですよね？

アーティスト名は覚えておりますが、分からない曲が多い印象です。脱マニアックと言われてしまうと、この世の中全ての曲がマニアック曲なんだろうな、と。でも入っているから面白いし、貴重だと思うし、聴いてみたいとも思います。

これ以上は脱マニアックにすることは無いと思います。このままでも値打ちがある番組だと思いますが、Shazam(音楽認識アプリ)で楽曲名検索されますか？対応していたらとても価値があると思います。分からないと永久に分からないというか、それがフラストレーションになり、脱マニアック選曲にしてくださいということに繋がるのではないのでしょうか。私自身、誰の曲か絶対知りたいです。総合的には楽しくて良い番組だと思います。

○放送局説明

今回お配りしました楽曲リストは、今週放送分になっております。脱マニアック曲の動きの中で手を加えていき、少しずつ整理しながらの編成をしていく段階だと思います。

◎審議委員

グループサウンズとフォークとの大きな違いは、電気音が入っているか入っていないか、です。メッセージ性はほとんど変わりませんが、サウンドが全然違いますね。服装の違いも大きいですが、グループサウンズには独特のリズムが存在しています。今後の番組構成はどのようにするのか。幅広く選曲されるのでしょうか。

○放送局説明

現在は、音楽性を重視して編成しております。

○放送局説明

チャンネル内でテーマ特集を設ければ、また聴き方も変わってくるのではと思います。現在はオムニバス形式なので電気音(エレキギター)サウンドの方に寄せていく形で編成しております。

◎審議委員

インストはかなり楽曲限られませんか？選曲次第では、聴いていておそらく飽きがくるかと思います。現在のようにアレンジがしっかりされているとか、ブラスが入っているわけではないから、インストのみで1時間放送されたらかなりつらいものがある。

どんな曲を持ってくるか。その辺を知りたいなと思います。

◎審議委員

年齢層高めの選曲になっているとは思いますが、契約年齢の多い20代～50代の方たちの作品は選曲されるのでしょうか？最近の楽曲も選曲していただけたら嬉しいです。娘や孫たちとのコミュニケーションにも新しい方たちの楽曲も聞いてみたいです。

○放送局説明

グループサウンズのターゲットは、40代・50代を対象にしています。オムニバス形式なので、ある程度時代を加味した編成内容になっています。

○放送局説明

4月より、20代～でも楽しめる新番組 **NEW-J-ROCK** を立ち上げました。試験的な試みで **ch400** ステーション 400 毎週火曜日 3時間で放送予定です。専門チャンネルの化を視野に検討を進めております。

◎審議委員

選曲基準は、グループ形態で、ハワイアンのように裏声で歌われているような楽曲でなければ問題ないかと思います。ムード歌謡も個人的には入れてもよいのかなと思います。インストに関しては、聴きなれた楽曲であれば混ぜてもよいかと。必ずしもインスト曲を外さなくてもよいかなと思いました。

脱マニアックの線引きをどこに置くか、難しいですね。

名前が知っている、知れていないということもあるかもしれませんが、ある程度ピッチとかリズムとかが備わっている楽曲は意識をして曲選考なさるのがよいかなと思います。非常によいチャンネルで素晴らしいコンテンツを考えてくださって感謝しております。

◎審議委員

クオリティも大切ですが、それも含めて懐かしさがあり当時感動した曲がかかるとうれしいです。

2) シティ・ポップ

◎審議委員

全体に聴いて視聴者の方たちが、どういった感じで聴いていらっしゃるのか。

お酒を飲みながら、本を読みながらなど、様々なシーンが考えられるかと思います。資料楽曲は同じテンポの楽曲が多かったですが、リズムパターンを工夫されてみたらよいかと思います。

短時間で利用する際には気になりませんが、スナック・バー・居酒屋など、長時間で利用する場合を考えると、途中でテンポの違うものが入っている方がメリハリがつくのではないのでしょうか。

◎審議委員

シティ・ポップというのは漠然としていて、そういう世界があったなあとなんとなく記憶しています。では「はっぴいえんど」がシティ・ポップだったのかというと何となく違うかなと思います。角松敏生さんが作られた、アイドルの方への楽曲提供曲などシティ・ポップの匂いや風景のある楽曲もありますが、そこまで広げてしまうのはどうなのかなと思います。

○放送局説明

今回は年代別に特集を組んでみました。70年代は、荒井由実、はっぴいえんど、黄金の80年代は山下達郎、大瀧詠一。90年代は、渋谷系・オリジナルラブなど、そして新人のサチモスなどを年代別シティ・ポップ特集をチャレンジしてみました。

◎審議委員

シティ・ポップという私のイメージでは、稲垣潤一さんが入ってこないシティ・ポップではないのではないかなと思います。難しいところだと思いますけど、シティ・ポップというからには洗練されたMR的なラインでの編成がよいと思います。年代で線引きすると、内容が薄くなってしまいますよ。シティ・ポップは名曲が多いので、名曲中心で選曲されるのも悪くないのではと思います。

◎審議委員

そもそもシティ・ポップという言葉をいまいち理解しておりません。いったいなにがそうでなにが違うか分かりません。ニューミュージックなど、色々呼び名がありましたよね。80年代の楽曲はドラムが打ちこみではなく、ちゃんと叩いているし、ベースもちゃんと弾いている。サウンドが明らかに違います。音の作り方がそもそも違うので、年代を混在するのはきついかと思います。70年代を初め、別の音楽になってしまう感じがします。資料楽曲についてですが、同じようなテンポでした。もう少しバラードでも構わないし、ゆったりしている曲なども選曲していただきたいです。

90年以降になるとちょっとつらいです。打ち込み系ですので。

90年代の楽曲が好きな人にはそれでよいのかもしれませんが。

◎審議委員

シティ・ポップという名前がつけられていますが、打ち込み系を聴いている方はシティ・ポップというタイトルに惹かれないのではないのでしょうか。

シティ・ポップ＝もう少しロマンティックの世界なので。

◎審議委員

シティ・ポップは、邦楽に限った言葉なのです。洋楽だと AOR になります。

特集で和（邦楽）のみでやっていくというのはつらいです。

◎審議委員

稲垣潤一さんはすごく洗練されていますよね。でもそうすると杉山清貴は？チェッカーズは？など、どんどん広がっていってしまう気がします。

本当に都会的でおしゃれな曲が日本のシティ・ポップであると思いますが、アルバムでも良い曲あると思いますし、シングル曲でも聴いても分からない楽曲もあるかと思えます。今回のリストを拝見する限り、シティ・ポップという概念からは少し違うような気がしました。どのように線引きをしたらよいのか難しいですね。極上の洋楽と、邦楽のポップス対決にしてしまうのもよいのではないのでしょうか。

シティ・ポップ＝都会的な音楽という意味ですが、あの頃のアイドルはとても都会的で、最高のミュージシャンが提供してしていました。宇多田ヒカルさんとなると、他にもいっぱいいらっしゃるのではないかなと思います。今回特集をやってみて『この楽曲はシティ・ポップではないのでしょうか』と提案し、リスナーさんには括りはどのようにされているかをお答えする形を取るのはいかがでしょう。音楽をたくさん聴いている者からすると、なかなか答えが導き出せないですね。

3) 総じて

◎審議委員

たくさんチャンネルがある中で、グループサウンズや、シティ・ポップなど世代を主張した特集ですが、このチャンネル、分けられるかな？と思ったことがスターデジオの面白さだと思います。"このように仕分けしてみました"ということが挑戦できるのは、民放の中でも数少ないサービスだと思います。

◎審議委員

加入者・視聴者から、リクエストや要望など意見が出たほうがよい番組が作れるとおもいます。ただ、耳に抜けていく楽曲ではなく、この曲違いますか？など反響があった方がよいです。興味を示していただくのが一番大事だと思いますので正解はありませんよ。マニアックな方がいてそれはそれでおもしろい。その意見を是非反映していただければと思います。

◎審議委員

意見を吸い上げる場所がありますか？

○放送局説明

運営するカスタマーサービスでご意見・ご要望を、電話やメールで随時受け付けております。グループサウンズも色々なご意見いただいております。

○放送局説明

本日委員の皆様から将来専門チャンネルとして立ち上げにあたり、様々なご意見をいただきました。今後も意見・要望を取り入れ、編成に反映し、将来結果を出していきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

以上